

BA シンポジウム「3.11 と ICT」発表概要

2011 年 7 月 7 日

NHK 経営企画局

元橋圭哉

【冒頭報告】

- テレビ放送のライブをインターネットで提供
 - ◆ 3 月 11 日午後 3 時頃、東日本大震災が発生した十数分後から視聴者が勝手にNHK 総合テレビの映像をUstreamに配信しはじめた。このライブ配信は、夕方以降、事実上、公式の配信になった。19 時頃からはニコニコ生放送でも同様の配信が行われた。
 - ◆ NHK はもともと関東大震災（1923 年）の教訓を踏まえて、1925 年設立された公共放送であり、大地震や集中豪雨などの緊急災害の際には、国民の安心・安全に関する報道には最優先で取り組んできた。それでも、普段は放送をそのままライブでネットに流すことは、著作権許諾や放送法などの課題があり実施していない。
 - ◆ 今回、比較的短時間でこれが実現した背景には、ここ 1～2 年、Ustream やニコニコ動画との様々なトライアルや番組でのコラボレーションによって培われた経験やそれを通じた人間関係、信頼関係があった。
 - ◆ 被災地を含め広域かつ長時間の停電によりテレビで情報を得られない人、勤務中でテレビやラジオに接することが出来ない人、帰宅難民の人々、普段ラジオを聞く習慣がなくラジオをどこかにしまいこんですぐには見つけれない人が大勢いることが想定された。そういう人々に PC やスマートフォンを通じて情報を伝えることができれば、という思いから、Ustream やニコ生からの打診を受けてほぼ即断に近い形で許諾を出し、緊急ニュース番組のライブ配信が実現した。これらのライブ配信は、発生 2 週間後の 3 月 25 日まで続した。
 - ◆ 安否情報などで Google の Person Finder と連携した。リアルタイムの放送はリニア（時間に沿って映像や音声で伝えるメディア）なので、そのときに視聴していないと自分にとって大切な人の安否情報を聞き漏らしてしまう。そこは、放送よりも検索性に優れたネットの方が得意。連携し、それぞれの得意分野を活かしあうことが大切、というのも、今回得られた大きな教訓。
 - ◆ まもなく、7 月 24 日には被害の大きかった東北 3 県を除き、テレビ放送のインフラ、家庭のテレビ端末がデジタル化する。このポテンシャルを活かして、放送とインターネットの連携を平常時からもっと進め、防災や公共的な情報伝達にどう活かしていくかということを考えていくことが、いざというときのために重要なのではないか。

【討論部分】

- 普段使いの情報端末、メディアで情報を届けることが最優先
 - ◆ 「災害時にはラジオ」と長年言われてきた。実際、普段からラジオに親しんでいる人にとっては今回の震災でもラジオが心強い情報源になったし、電池だけで長時間聞けるラジオは避難所などでも欠かせない情報源や癒しのメディアになったといわれている。半面、普段ラジオをあまり聞かない人は、ラジオをどこかにしまい込んだり電池が切れていたりで、当座は役に立たなかったというケースもあった。
 - ◆ ほとんどのケータイに搭載されているワンセグ（デジタル放送受信機能）。発生直後、立ち往生した電車の中でワンセグ（デジタル放送）の緊急報道で大津波警報を知り高台に逃げた人がいたなど、発生直後には多くの人の役になったといわれている。しかしバッテリーが短時間しか持たず、皆さん、ケータイは家族との安否確認などのためにバッテリーを温存したいと考えるため、ワンセグは災害が長期化する際には限界がある。ワンセグのバッテリーをどう長く持たせるかなどが今後の課題。
 - ◆ その他、会社で勤務中はPC（ネット）は見られるがテレビは見られない、などという状況もわかった。いざという時も、普段から持ち歩いている端末、普段から接触しているメディアに頼る傾向があるのではないか。普段使いのメディア、普段使いの端末で、誰もが必要な情報を得られるような環境を、われわれが作っていくことが大事。
- 複数の手段を併用することが重要
 - ◆ 視聴者は状況にあわせてそのときに可能な端末で情報を得る。従来のようにテレビやラジオだけを対象として、放送電波を用いて情報を伝えるだけでは、必要な情報が必要な人に的確に伝わらなくなっている。フェールセーフの発想で、放送・インターネット、地上・衛星、固定端末・移動端末、テレビ・ラジオ・スマートフォン・PC、など異なる媒体、異なる端末を複合的、多層的に使って情報をいくことが肝心。
 - ◆ 技術は常に進化している。ユーザーのメディア接触環境も常に変化している。過去に正しかったことが、いま正しいとは限らないし、いま最適なことが数年後にも最適かどうかはわからない。常に技術の進化やユーザーの環境の変化を把握しながら、的確な情報伝達に努めるべきではないか。
- 放送とインターネットは普段からもっと連携すべき
 - ◆ 過去 10 年、日本では「放送」と「インターネット」の関係は必ずしも良好ではなかった。そろそろ不幸な歴史に終止符を打ち、放送とインターネットがそれぞれの得意分野を理解しあい、もっと連携すべき時代が来ている。
 - ◆ 災害時にそのような取り組みをするためにも、普段からの関係構築、強化を図っていくことがカギになる。